

響け 平和の鐘

飛鳥・橿原 ユネスコ協会 岡寺でイベント

教育・文化振興に活動する飛鳥・橿原ユネスコ協会(事務局・橿原市)は19日、明日香村岡の岡寺(川俣海淳住職)で「平和の鐘を鳴らそう」と題するイベントを開催。会員ら

約90人が参加して、平和を祈る鐘を鳴らすとともに、世界遺産登録を目指す同地域の歴史についても学んだ。同協会は、歴史の深い同地域で国連教育科学文化機関(ユネスコ)

活動の普及を目指して今年3月に設立され、今回が初事業。米田正国会長は「地球が平和で次の世代に引き継げるように行動しよう」と本堂で呼び掛けた。

代の生活の原点は飛鳥時代にある」と話した。森下豊橿原市長や関義清明日香村長も参加。参加者は「銅の質が悪い」ことを口実に戦時供出を免れたという逸話を持つ本堂前の鐘を一人一人突いて平和を祈願。同村に里帰りした愛知県秋山真理さん(28)は「子どもが生まれて平和を考えるようになった。住職の話は胸にしみた」と話していた。



森下・橿原市長(左)と一緒に平和を祈願する鐘を鳴らす子どもたち。19日、明日香村岡の岡寺